

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300205		
法人名	株式会社 アイケア		
事業所名	グループホームあいの街富士川		
所在地	静岡県富士市岩淵131-1		
自己評価作成日	平成29年9月1日	評価結果市町村受理日	平成29年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokansaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;IjyosyoCd=2292300205-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=">http://www.kaigokansaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;IjyosyoCd=2292300205-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年9月11日		

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が毎日を快適に、充実して過ごせるように個別を重視したケアを心がけている。利用者同士やスタッフと利用者が朗らかに、笑顔多く過ごすことで明るい雰囲気を作り出されている。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまでは急変や夜間医療に不安がありましたが、「24時間いつでも」「伴侶が薬剤師」との在宅医療専門医に協力医となつてもらえ、毎週(1名に付隔週)の訪問診療には看護師も立ち合い、「療養管理指導」の共有も確かとなって医療体制が大いに前進しています。開設以来初めてとなる看取りも、医師から「判断と連携がよくできた」との評価をもらえ、特に一時入院していた際、抑制があったことで家族、本人が此処を強く望んだことに応えることができ、心に残るお見送りとなりました。事後には「初めてだからメンタルケアも必要だし…ね」ということで職員アンケートの配布もあって、医師からの至れり尽くせりの支援があります。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH入り口にスタッフ写真とともに掲示。理念を心がけながら業務を行っている。	掲示で周知を図り、「画一的にしない」「個々の想いを聴く」ことを職員相互に意識して声を掛けあい、「ひとりではみんなのために、みんなはひとりのために」を推進していて、定着率の高さがそのことを裏付けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加したり、ボランティアや来客者を受け入れながら交流を続けている。 日頃の散歩で、近所の知人と会話が弾むことも。	市と地域双方の防災訓練には車いすが必要な利用者も年齢や立場等でグループ分けした中に入り、訓練や炊き出しを体験しています。職員を通じて学校とも関係ができ、児童会からは物品も届いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の際などに地域から、認知症によるトラブルについての相談が挙がることもあり、支援方法や協力について話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、写真入りの近況報告とともに意見交換などを行っている。 挙げられた意見などは、議事録やミーティングなどで他スタッフとも共有。	絵を描くのが得意の職員が腕を振った干支のイラストと、日々の写真に心躍るレジュメを用意して、行政、地域、職員とで集い、併設の小規模多機能事業所と合同で隔月開催出来ています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加いただいたり、市主催の研修会などに積極的に参加し、情報交換や協力を頂いている。	まちづくりセンターや小学校が近くにあることもあって、人の出入りに活気があります。運営推進会議には市役所介護保険課、地域包括支援センターが交替で出席くださり、行政情報や助言を入れてくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束対象となる利用者はいないが、内部研修を行い禁止事項であるとの認識を高めるとともに、事例検討を通してケアの方法について考える機会を設けている。	玄関、ユニットと出入り口に施錠はありませんが、ユニットには階段への安全配慮からチャイムが設置されています。内部講習会で職員の知識共有もあり、また長く仲間として働くことで「それちょっと言い過ぎだよ」とフィードバックも機能しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修により虐待についてどのような事例が対象なのかを検討、相談するとともに意識を高めるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人を活用している利用者がある。内部研修を通して、利用者の権利擁護について学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明、了解を経て契約。不明な点はいつでも問い合わせてもらえることも伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要に応じて連絡を行うと共に、日頃の面会時に情報交換や家族の意見を得られるよう働きかけている。	運営推進会議の出席はありませんが、案内と議事録は必ず届け、地域との交流も兼ねた家族会も年1回開催しています。家族から特段進言はなく「施設の感じがしない」「気楽に来れる」という声をもらえています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングによって、勤務についてやスタッフ間の意見交換も行っている。また個々に管理者に話す機会を設けられるよう努めている。	7年(開設)以上が3名いて、平均勤務年数も4.5年と長く定着していることから、気おくれすることなく言葉が出てくるので、オープンで風通しのよい場が出来上がり、物事が解決しやすいことが自慢です。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力に合わせた役割分担を行ったり、勤務調整を行うなど職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社からの研修を内部研修としてスタッフに講習するとともに、各種の資格取得を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH連絡協議会に参加し関係性を持つことで、密な連絡や情報交換などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り、要望に沿った環境や対応方法を検討。また、訴えや状況の変化を見逃すことのないよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前より接する機会を設け、情報を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を確認し、適した支援が行えるように検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の状態を把握しながら、適した役割や作業をともに行うことで関係性を築く様努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来やすい雰囲気や関係性を作ると共に、施設行事などへの参加も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の利用者が多く、家族以外(友人知人など)の面会訪問受け入れたり、地域ボランティアの受け入れにより関係を切ることがないよう努めている。	毎日の暮らし向きには基本の流れはあるものの、家族や地域の人が自然に集まっています。また個別対応を旨とし「まだ相撲(TV)が終わってないから」と言われれば食事時間をずらすといった柔軟な対応ができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状態に合わせた席配置など様々な面で配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。(状況に応じて)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	強く希望する利用者はその意見に沿えるよう、把握が困難な利用者でも、場面ごとに声をかけ意向を知るように配慮している。	日勤職員に親しみがあることを承知して、調理中でも手を止め寄り添うことができている、管理者は意向把握と実践には安心を覚えています。例えば節句にはちらし寿司を鯉のぼりに見立てたりと、毎日工夫満載です。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までに情報収集し、個々に状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態の記録化とともにミーティングでの状況把握。対応の見直しや経過観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族や(他職種含め)スタッフ同士が積極的に関わり、より良いケアが行えるように意見交換を行っている。	計画作成と介護支援専門員が兼務で情報を一元化させ、職員意見はカンファレンスで共有しています。サービス担当者会議は管理者、介護支援専門員、家族とできていて、利用者も同席することがあります。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録の内容をケアマネも把握し、計画作成等に活かされるよう調整。気づきレポートとして、危険予測や気付いたことの確認も行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状況に合わせて、適切に対応できるよう努力。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無理のない程度に外出や行事参加を勧め、また個々の趣味や得意分野を活かしたレクリエーションなどを通じて充実した生活が送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域に密着したかかりつけ医の協力により24時間連絡が取れ、隔週での訪問診療を受けている。また、利用者の希望に応じその他の医療機関への受診も適時に行っている。	「24時間いつでも」の在宅医療専門医に協力医となってもらえ、毎週(1名に付隔週)の訪問診療には看護師も立ち合い連携もとりやすく、「療養管理指導」の共有も確かとなり、医療体制が大いに前進しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者との看護職が接する機会が増え、より状況把握がしやすくなる。状態を詳細に記録することで、往診時の伝達に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院中は、管理者やケアマネと病院関係者で情報交換を行い、入院中の様子や退院の目安などについて相談している。また、その他の患者の退院ごの受け入れ先について相談に応じることもある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医の判断に基づき、必要に応じて家族を交えた話し合いの機会を設けることができている。	7月に看取った利用者は、医師からも「判断と連携がよくできた」との評価をもらえています。特に一時入院していた際、抑制があったことで家族、本人が此処を強く望んだことに応えることができ充実した体験となりました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を実施するとともに、マニュアルを作成。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での避難訓練の実施のほか、地域行事の訓練に参加し施設の特徴や状態について知ってもらえるよう努めている。夜間想定訓練により、少数でも避難できるようにしたい。	後方の山が土砂災害危険エリアとなっていることから準備情報で動くことになっていて、防災無線の購入も果たしています。そのため火災、地震に加え、土砂災害も想定しての訓練を年3回実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症が進んだ利用者に対して、強い拒否などにスタッフが反論してしまったり、行動を制限してしまうことがある。安全を確保したうえで個々の人格を尊重した対応ができるようさらに努めたい。	良事では声かけも言め介助が必要な人が3名、ゆっくりな人が2名いて職員は個々のペースに合わせ、常に朗らかな対応があります。また職員全員が女性のため同性介助はできませんが、意向に副う事はできています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の判断能力に合わせて質問の仕方などを変えながら、自己決定へとつながるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調や気分に合わせてペースで日々を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装選びや化粧、整容など様々に取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められたメニューばかりでなく、季節に合った行事食を取り入れたり、誕生日などに好物を提供するなどしている。また、日々協力を得るとともに片づけなどを行っている。	主菜に副菜2品がつき、しっかりとした内容ですが、利用者は完食しています。ご飯も野菜もやわらかく炊いてあるものの、味付けはマヨネーズやしょうゆだれの若者風で馴染みやすいメニューです。	誰も見ていなくてもテレビがかかっていましたので、改めて意向確認するとともに、BGMなどへの切り替えを検討ください
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは管理されているが、体調や状態によってその通りに摂取が難しい場合もあるため、把握に努め、水分量と合わせて管理表に反映。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた道具などでケアを実施。また、訪問歯科医の指導・診察も受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一覧表の活用により、排泄パターンをある程度把握。ADLに合わせて対応できている。	排泄チェック表で自立の人も全員把握し、投薬とも連動させています。見た目には一人でトイレに行けそうに思う身体状態ですが、精神的なことから頻度が極端に変化する人もいて、職員が症状に困って気にかけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医との連携や水分摂取量の増量により改善傾向にある。個々の体質によって、薬の種類や水分量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、個々の体調や希望に応じた時間で実施。特に希望があれば、入浴日以外でも対応可能であることを利用者に伝えている。	羞恥心への配慮と皮膚乾燥を考慮して乳白色の溶剤を使用し、1日おきの入浴が叶っています。3面から脚を入れることができる浴槽は介助がしやすく、また市の指導に則り、個毎に湯を張り替えています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間は本人に合わせて共に快適に過ごせるよう寝具の検討や、室温を管理するなどの配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に医師に相談し、個々の情報が必要に応じて確認できるように準備。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の要望を活かした企画を用意したり、作品を展示会に出展して意欲を高められるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	強い外出(帰宅)願望に対応することが多く、特定の利用者に偏りがちである。外出レクは全員が体調に合わせて参加できるように、行き先などを変えるなどの配慮をしている。	暑い、寒いには戸外は控え、時節行事をレクと食事で盛り上げる文化と共に、併設事業所があることで心的な弾みが毎日あります。ADLの低下で家族に代わる個別外出が増えてはいますが、実施は本人本位なもの入浴と交互で散歩の日も設けています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際や地域のお祭りの縁日などで家族の了承を得て使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の求めに応じて、希望するところへ電話をかけたり手紙のやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下が窓と接する面が少ないため暗くならないように配慮し、利用者の作品を掲示したり、季節に合わせた装飾を施している。 自室とリビングの行き来は自由で、ほとんどの利用者が自ら、日中をリビングで過ごしている。	1ヶ月に1枚以上は塗り絵をお願いして掲示することで、「まだまだできている」と家族にも喜んでもらっています。ほかにもトイレトイレットペーパーの芯や紙コップ、空き缶で制作したレク作品が豊富で、体交枕を模した職員手作りのクッションもあり、温もりが充満しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	項目52に倣い、利用者の希望に応じて好きな場所で過ごせるよう配慮。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時より、希望に沿ったものやADLに合わせたものを持ち込んでもらい居室を整えている。	小さな鏡台や机を置いたり、プラスチックケースで衣類を整理したりと、ごく普通の暮らしぶりを続けることができている、「長く一緒に居るからね」と作品を配って廻る人がいることから、同じものが各居室に置かれています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用の設備の入り口には表記をし、個室がわからなく利用者には合わせて飾りを設けるなどしている。できることは継続して行えるよう配慮。		